

たまごでぐちゃぐちゃ

きょうかい かんし
教会機関誌

ルーシー・スティーブンソン・イーウェル

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

たまごがもう一つテーブルから転がり落ちたのです。グシャッ!

サーシャは明るいピンクのスカートをはいてくるくと回りまわりました。教会に着ていく、お気に入りの服でした。これから、教会の大好きな時間です。初等協会です!

サーシャの先生は、子供たちが信仰箇条を覚えるのを助けていました。今日は13条を学んでいます。その長いこと! でも、バンド姉妹は、こう言いました。「最初の部分は覚えられるわ。『わたしたちは正直〔である〕べきことを信じる。』一緒に言ってみよう!」

「わたしたちは正直であるべきことを信じる」とサーシャとほかの子供たちは言いました。

その週、サーシャと弟のアルフレッドが台所で遊んでいると、「つままない」とアルフレッドが言いました。

「わたしも。」すると、サーシャはテーブルの上のたまごを見つけました。たまごで遊んだら楽しそうです。「そうだ、いい考えがある。ゲームをしよう!」

サーシャはたまごを手に取りました。「テーブルの向こう側に立って」とサーシャはアルフレッドに言うと、アルフレッドの方にたまごを転がしました。サーシャとアルフレッドは笑いしました。たまごはふらふらと転がっていきます。

「あなたの番よ」とサーシャは言いました。

アルフレッドはたまごをサーシャに向かって転がしました。ところが、今回はまっすぐに転がらずに、曲がって、テーブルから転がり落ちました。グシャッ! たまごがゆかに落ちて、ゆかはひどくよごれてしまいました。

アルフレッドは目を見開いてサーシャを見ました。それから、二人ともふき出しました。「もう一度やろうよ」とアルフレッドは言いました。

サーシャはもう一個たまごを手に取りました。「転がり落ちる前に受け止めてね」とサーシャ。サーシャは前よりもたまごを強く転がしました。アルフレッドはたまごをつかみそこないました。グシャッ!

アルフレッドはたまごをさらに二個、手に取り、もっと速く転がしました。サーシャは間に合わず、たまごを止められませんでした。グシャッ! グシャッ! サーシャとアルフレッドはまた笑いしました。

そのときサーシャには、お母さんの足音が聞こえました。なんてこと! 二人は大変なことになるでしょう!

サーシャはお母さんにおこられたくないと思いました。作り話をするのもできるかもしれませんが、自分たちがやったのではない、とお母さんに言うこともできるでしょう。

でもそのとき、サーシャは信仰箇条第13条を思い出しました。「わたしたちは、正直〔である〕べきことを信じる。」

「何があったの?」お母さんはそうたずねて、よごれたゆかをじっと見ました。「だれがたまごをわったの?」



サーシャは深く息をすいこみました。「お母さん、ごめんなさい。わたしとアルフレッドでやったの。たまごで遊んだら楽しそうだと思う。でも、良い考えではなかったわ。片付けを手伝うわ。」

「ぼくも手伝うよ」と、アルフレッドが言いました。

お母さんはサーシャとアルフレッドをだきしめました。「ほんとうのことを教えてくれてありがとう。」

サーシャはにっこりしました。それからアルフレッドの方を向きました。「お片付け競争の新しいゲームを作れそうね!」●

これはザンビアでのお話です。



ママがたまごについてたずねたとき、サーシャはどうしましたか。